



先制点を決めた森本を祝福する選手たち

駒澤大学2-0 早稲田大学

駒大の真価、たつのこで証明!

前節までの3連勝で4位へ順位を上げてきた駒大は、昨季3度対戦し、いずれも敗戦している早大戦に臨んだ。

試合は、前日までの暖かい春の陽気とは打って変わって震えるような寒さの中で始まった。開始直後こそゴール前で早大にホレーシュートを打たれピンチを迎えるも、その後は駒大がペースを握る展開となった。「最初からガンガン行こうと言っていたので」と平岩が振り返るように、駒大は前線からの積極的なプレスで相手に余裕を与えず、守備では時には2人、3人と人数をかけて相手を囲みボールを奪うなど、高い意識がみられた。

高い位置からボールを奪いチャンスを作り出していた駒大は、二分に左サイド深い位置からのロングスローがゴール前に入り混戦になりながらも、森本が左足で冷静にゴールに流し込み先制する。18分には、中央やや左でパスを受けた三島がそのままドリブルで早大DF陣を強引に突破しシュート。ゴール右上へ豪快に突き刺し、早い段階で追加点を奪った。

後半に入っても集中力は途切れず、球際や頭での競り合いでもこぼれ球を譲らずに、安定した守備で早大に攻撃の形らしい形をほとんど作らせなかった。

ボールを奪ってからの素早い攻撃や、三島のポストプレーからのサイド攻撃で再三チャンスを作るなど試合全体を支配した駒大が、このまま2-0のスコアで快勝。宿敵を下し、4連勝を飾った。

試合後に選手が語ったのはやはり「気持ち」の面。「勝ちたいという気持ちを強く持つように盛り上げた(鈴木主将)。「気持ちの面で負けられない」と思った(森本副主将)など、試合を通して高い集中力を保てたことは試合前から選手がこの一戦の重要性を理解し、気持ちを高めて試合に臨めたのが大きい。

「やるって言うことをはつきり徹底していけば駒大もやれるってことがわかってきた。これを続けていけば秋には良い結果も見えてくるかな」と、試合後に秋田監督が語ったように、このまま良い流れを前期残り3戦でも維持し続け、更なる駒大サッカーの徹底を図れば、最後には「チャレンジャー」から「王者」へ振り返り咲く瞬間が待っているはずだ。

(佐藤貴史)



「ボールを持った瞬間から強引に行こうと思った」と2点目を決めた瞬間の三島

(撮影・星 宏樹)